

街へ、暮らしへ、広がる近鉄ネットワーク

証券コード9041



www.kintetsu.jp

2013年3月期決算説明会

2013年5月17日



- I. 2013/3月期 決算の概要
- II. 2014/3月期 業績予想
- III. 近鉄グループ経営計画 進捗状況

I . 2013/3月期 決算の概要



2013/3期 決算トピックス

■ 運輸事業

- ◆ 奈良線八戸ノ里・瓢箪山間連続立体交差化工事を推進
- ◆ 12/12月 : 「KIPS ICOCAカード」発売開始
- ◆ 13/3月 : 交通系ICカードの全国相互利用サービス開始
- ◆ 13/3月 : 新型観光特急「しまかぜ」の運行開始

■ 不動産事業

- ◆ 阿部野橋ターミナルビル「あべのハルカス」整備事業を推進
- ◆ 13/2月 : 「近鉄学研奈良登美ヶ丘住宅地」分譲住宅の販売開始

■ 流通事業

- ◆ 「あべのハルカス」内、あべのハルカス近鉄本店の建設を推進(6月13日に先行開業予定)
- ◆ 12/11月 : 宇治山田駅構内ショッピングモール「Time's Place うじやまだ」を開業

■ ホテル・レジャー事業

- ◆ 「あべのハルカス」内、「大阪マリオット都ホテル」の建設を推進

■ その他

- ◆ 12/11月 : 「近鉄ふぁーむ 花吉野」で栽培した「花吉野からトマト。」の発売開始

■ グループ再編

- ◆ 13/1月 : 近鉄グループ旅行事業再編(近畿日本ツーリストとクラブツーリズムの経営統合)

2013/3期 業績の概要(連結)

(億円、%)	2012/3期		2013/3期		前期比増減		増減要因	2012/11 時点見通
		構成比		構成比	金額	率(%)		
売上高	9,427	100.0	9,321	100.0	▲ 106	▲ 1.1	流通▲210、レジャー+123	9,400
営業利益	402	4.3	474	5.1	72	18.0	レジャー+41、運輸+22	460
経常利益	271	2.9	350	3.8	78	29.1	支払利息減+16、 持分法投資利益▲4	320
特別利益	98		116		18	18.5	段階取得に係る差益+10、 工事負担金等受入額+3	
特別損失	259		163		▲ 95	▲ 36.9	経営構造改革費用▲153 減損損失+51、事業整理損+10	
当期純利益	86	0.9	200	2.1	113	130.8		180

持分法投資利益	53		48		▲ 4	▲ 9.1		50
借入金・社債	12,909		12,767		▲ 141	▲ 1.1		12,900
EBITDA倍率	14.6倍		13.5倍				EBITDA: 営業利益+ 減価償却費	13.7倍

(注)連結子会社数 58社(前期末比10社増加※) 持分法適用会社数 5社(前期末比1社減少)

※KNT-CTホールディングス(旧近畿日本ツーリスト)と同社子会社8社を2013/3期末に子会社化

2013/3期 貸借対照表の主な増減(連結)

(億円、%)	2012/3期		2013/3期		比較 増減額
		構成比		構成比	
流動資産	3,080	16.8	3,491	18.1	410
固定資産	15,294	83.1	15,742	81.7	447
うち事業用資産	13,884		14,071		186
資産合計	18,395	100.0	19,258	100.0	862
流動負債	5,870	31.9	6,516	33.9	645
固定負債	10,602	57.6	10,577	54.9	▲ 24
負債合計	16,472	89.5	17,093	88.8	620
うち借入金・社債	12,909		12,767		▲ 141
純資産合計	1,923	10.5	2,164	11.2	241
うち利益剰余金	▲ 138		▲ 36		101
負債、純資産合計	18,395	100.0	19,258	100.0	862

《主な増減要因》

資産

- ・事業用固定資産 **+186**
(うち、設備投資 **+602**、減価償却 **▲472**
KNT-CTHD新規連結 **+103**)
- ・KNT-CTHD新規連結 **+638**
(※事業用固定資産を除く)
- ・投資有価証券の増 **+115**
- ・販売土地建物の減 **▲109**

負債

- ・KNT-CTHD新規連結 **+750**
- ・借入金・社債減 **▲141**

純資産

- ・利益剰余金 **+101**
- ・その他の包括利益累計額 **+77**
- ・少数株主持分 **+61**

2013/3期 キャッシュフローの状況(連結)

(億円)	2012/3期	2013/3期	比較増減額
営業活動によるキャッシュフロー	813	787	▲ 25
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 543	▲ 494	48
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 361	▲ 248	113
現金及び現金同等物の期末残高	235	468	232
フリーキャッシュフロー(営業CF+投資CF)	269	293	23
財務活動のうち借入金・社債フロー計	▲ 339	▲ 121	218

《キャッシュフローの当期の状況と対前期比増減》

営業活動

- ◆ 税金等調整前当期純利益の増や仕入債務の減少額の減はあったが、たな卸資産減少額の減、法人税等の支払額の増のほか、前期は資金支出を伴わない経営構造改革費用の計上があったため、前期比25億円減の787億円の収入

投資活動

- ◆ 貸付けによる支出の減、貸付金の回収による収入の増により、固定資産の取得による支出の増を差し引き、前期に比し48億円の支出減である494億円の支出

財務活動

- ◆ 前期は連結子会社増資に伴う少数株主からの払込金による返済を含め短期借入金の圧縮を進めたため、社債の償還による支出の増を差し引き、前期に比し113億円の支出減である248億円の支出

現金及び現金同等物の期末残高

- ◆ KNT-CTHDの新規連結による増加を含め、前期比232億円増の468億円

2013/3期 セグメント別実績(連結)

(億円、%)	2012/3期	2013/3期	前期比増減	
	売上高	売上高		
	営業利益 (営業利益率)	営業利益 (営業利益率)	金額	率
運 輸	2,125	2,138	13	0.6
	273 (12.9)	296 (13.9)	22	8.3
不 動 産	1,392	1,363	▲ 29	▲ 2.1
	81 (5.9)	81 (6.0)	0	0.1
流 通	4,004	3,794	▲ 210	▲ 5.2
	37 (0.9)	45 (1.2)	8	22.2
ホ テ ル ・ レ ジ ャ ー	1,975	2,098	123	6.2
	▲ 1 (▲0.1)	39 (1.9)	41	—
そ の 他	121	135	14	11.6
	8 (6.9)	7 (5.8)	▲ 0	▲ 6.6
合 計	9,427	9,321	▲ 106	▲ 1.1
	402 (4.3)	474 (5.1)	72	18.0

2013/3期 運輸セグメント実績(連結)

(億円)		2012/3期	2013/3期	前期比増減	率(%)
売	上 高	2,125	2,138	13	0.6
	鉄 軌 道 事 業	1,533	1,540	6	0.4
	バ ス 事 業	341	339	▲ 2	▲ 0.7
	タ ク シ ー 業	111	110	▲ 1	▲ 1.0
	交 通 広 告 業	82	84	1	1.9
	鉄道施設整備業	215	232	16	7.8
	海 運 業	19	19	0	2.1
	レ ン タ カ ー 業	30	30	0	1.1
	消 去	▲ 210	▲ 219	▲ 9	
営 業 利 益		273	296	22	8.3

■ 売上高の主な増減要因

鉄軌道部門において、震災発生後の出控えの反動増、沿線の観光施設開業効果、ダイヤ変更による特急列車の利用者の増加等により増収

2013/3期 不動産セグメント実績(連結)

(億円)		2012/3期	2013/3期	前期比増減	率(%)
売	上 高	1,392	1,363	▲ 29	▲ 2.1
	不 動 産 販 売 業	948	910	▲ 37	▲ 4.0
	不 動 産 賃 貸 業	186	187	1	0.7
	不 動 産 管 理 業	306	313	7	2.3
	消 去	▲ 48	▲ 48	0	
営 業 利 益		81	81	0	0.1

■ 売上高の主な増減要因

不動産販売部門において、マンション分譲で広域からの集客が可能な地域に絞り込んだため減収

2013/3期 流通セグメント実績(連結)

(億円)		2012/3期	2013/3期	前期比増減	率(%)
売	上 高	4,004	3,794	▲ 210	▲ 5.2
	百貨店業	2,958	2,758	▲ 200	▲ 6.8
	ストア・飲食業	1,072	1,049	▲ 23	▲ 2.2
	消 去	▲ 26	▲ 12	13	
営 業 利 益		37	45	8	22.2

■ 売上高の主な増減要因

百貨店部門において、不採算店舗の閉鎖等により減収

2013/3期 ホテル・レジャーセグメント実績(連結)

(億円)		2012/3期	2013/3期	前期比増減	率(%)
売	上 高	1,975	2,098	123	6.2
	ホ テ ル 業	439	463	23	5.4
	旅 行 業	1,388	1,495	107	7.7
	映 画 業	33	31	▲ 2	▲ 7.6
	旅館・レジャー施設業	113	108	▲ 5	▲ 4.7
	消 去	—	—	—	
営 業 損 益		▲ 1	39	41	—

■ 売上高の主な増減要因

震災後の反動増のほか、「ホテル近鉄京都駅」が年間を通じて収益に貢献したため増収

2013/3期 設備投資・減価償却費(連結)

(億円)		2012/3期	2013/3期	比較増減額
設 備 投 資		640	602	▲ 37
	運 輸	216	239	23
	不 動 産	309	246	▲ 63
	流 通	28	68	40
	ホ テ ル ・ レ ジ ャ ー	64	32	▲ 31
減 価 償 却 費		479	472	▲ 6
E B I T D A		881	947	65

■ 設備投資の主な増減要因

- 運輸 : (本年)新型観光特急「しまかぜ」新造
- 不動産 : あべのハルカス設備投資額減
- 流通 : あべのハルカス近鉄本店タワー館 設備投資額増
- ホテル・レジャー : (前年)「ホテル近鉄京都駅」建設

2013/3期 業績の概要(単体)

(億円:%)	2012/3期		2013/3期		前期比増減	
		構成比		構成比	金額	率(%)
営業収益	2,647	100.0	2,664	100.0	16	0.6
鉄軌道事業	1,529		1,536		6	0.4
付帯事業	1,117		1,128		10	0.9
営業利益	326	12.3	348	13.0	21	6.6
鉄軌道事業	256		279		22	8.8
付帯事業	70		69		▲ 0	▲ 1.3
経常利益	185	7.0	212	8.0	26	14.5
特別利益	71		75		3	5.5
特別損失	84		101		17	20.6
当期純利益	124	4.7	119	4.5	▲ 5	▲ 4.0

Ⅱ. 2014/3月期 業績予想



2014/3期 業績予想(連結)

(億円、%)	2013/3期 実績		2014/3期 予想		前期比増減	
		構成比		構成比	金額	率(%)
売上高	9,321	100.0	12,500	100.0	3,178	34.1
営業利益	474	5.1	510	4.1	35	7.5
経常利益	350	3.8	400	3.2	49	14.1
当期純利益	200	2.1	230	1.8	29	15.0

(億円)	2013/3期 実績	2014/3期 予想	比較増減額
設備投資	602	790	187
運輸	239	240	0
不動産	246	170	▲ 76
流通	68	220	151
ホテル・レジャー	32	140	107
減価償却費	472	530	57

借入金・社債残高	12,767	12,800	32
E B I T D A 倍率	13.5倍	12.3倍	

2014/3期 セグメント別予想(連結)

(億円、%)	2013/3期 実績	2014/3期 予想	前期比増減	
	売上高	売上高		
	営業利益 (営業利益率)	営業利益 (営業利益率)	金額	率(%)
運 輸	2,138	2,165	26	1.2
	296 (13.9)	273 (12.6)	▲ 23	▲ 8.0
不 動 産	1,363	1,460	96	7.1
	81 (6.0)	95 (6.5)	13	16.3
流 通	3,794	4,000	205	5.4
	45 (1.2)	68 (1.7)	22	48.4
ホテル・レジャー	2,098	5,090	2,991	142.6
	39 (1.9)	64 (1.3)	24	62.1
そ の 他	135	135	▲ 0	▲ 0.3
	7 (5.8)	8 (5.9)	0	2.4
合 計	9,321	12,500	3,178	34.1
	474 (5.1)	510 (4.1)	35	7.5

各セグメント売上高の主な増減要因

不動産： マンション販売の増加により増収

流通： あべのハルカス近鉄本店の先行開業により増収

ホテル・レジャー： KNT-CTHD等の新規連結により増収

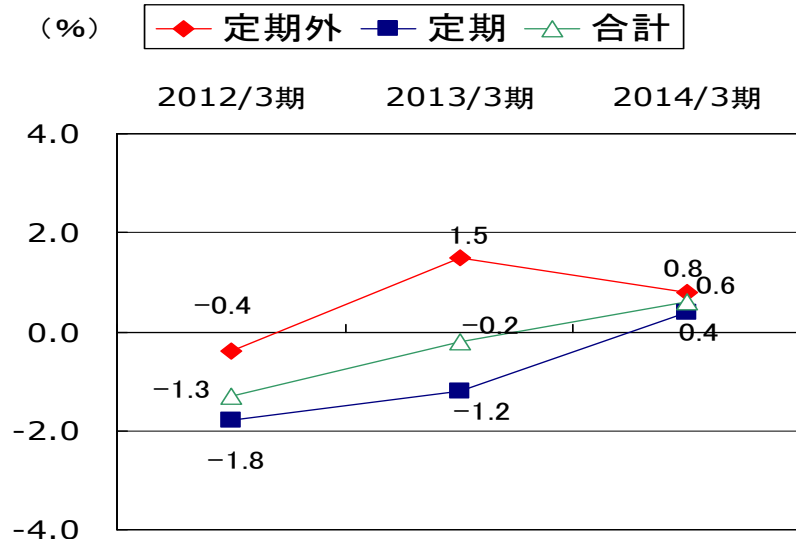
2014/3期 業績予想(単体)

(億円:%)	2013/3期 実績		2014/3期 予想		前期比増減	
		構成比		構成比	金額	率(%)
営業収益	2,664	100.0	2,750	100.0	85	3.2
鉄軌道事業	1,536		1,550		13	0.9
付帯事業	1,128		1,200		71	6.4
営業利益	348	13.0	340	12.4	▲ 8	▲ 2.5
鉄軌道事業	279		260		▲ 19	▲ 7.0
付帯事業	69		80		10	15.6
経常利益	212	8.0	200	7.3	▲ 12	▲ 6.0
当期純利益	119	4.4	120	4.4	0	0.4

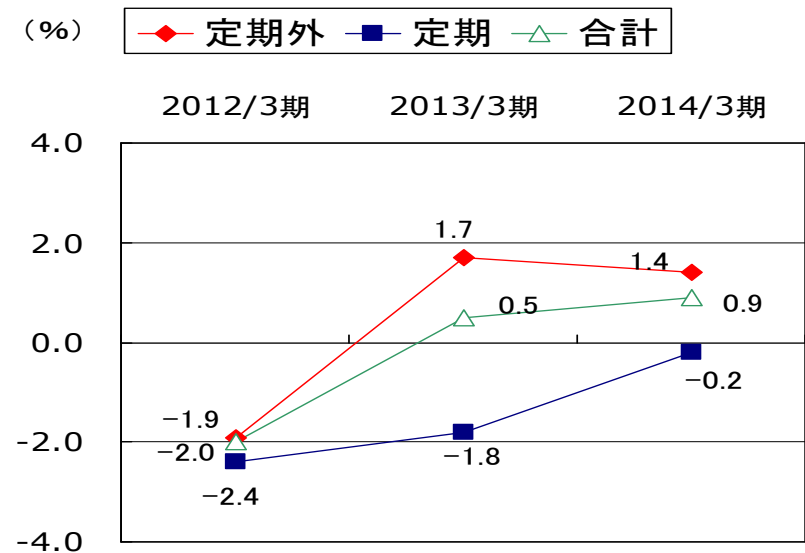
【ご参考】鉄道運輸成績の実績および予想

(近畿日本鉄道単体)		2012/3期		2013/3期		2014/3期	
		実績	前期比	実績	前期比	予想	前年比
旅客人員 (百万人:%)	定期外	223	▲ 0.4	226	1.5	228	0.8
	定 期	342	▲ 1.8	338	▲ 1.2	339	0.4
	計	566	▲ 1.3	565	▲ 0.2	568	0.6
旅客収入 (億円:%)	定期外	957	▲ 1.9	974	1.7	987	1.4
	定 期	483	▲ 2.4	475	▲ 1.8	474	▲ 0.2
	計	1,441	▲ 2.0	1,449	0.5	1,461	0.9

<旅客人員 前年比の推移>



<旅客収入 前年比の推移>





Ⅲ. 近鉄グループ経営計画 (**2010年度～2014年度**) の進捗状況

経営計画の概要① 期間と位置付け

阿部野橋ターミナルビル(あべのハルカス)が完成する2014年までを「基盤強化期」と位置付け、その間に各種プロジェクトを着実に実現すると共に、構造改革を進め、新たな収益基盤の確立に向けた事業創出を図る。



経営計画の概要② 経営数値目標

あべのハルカス完成までの間、現行の配当水準を安定的に維持するために必要な利益と財務体質の健全性を確保する。

	2011/3 実績	2012/3 実績	2013/3 実績	2014/3 予想	2015/3 経営計画目標
連結営業収益	9,600億円	9,427億円	9,321億円	1兆2,500億円	1兆1,000億円
連結営業利益	399億円	402億円	474億円	510億円	600億円
連結当期純利益	143億円	86億円	200億円	230億円	200億円
連結有利子負債	1兆3,248億円	1兆2,909億円	1兆2,767億円	1兆2,800億円	1兆2,800億円
EBITDA倍率	15.2倍	14.6倍	13.5倍	12.3倍	11.0倍

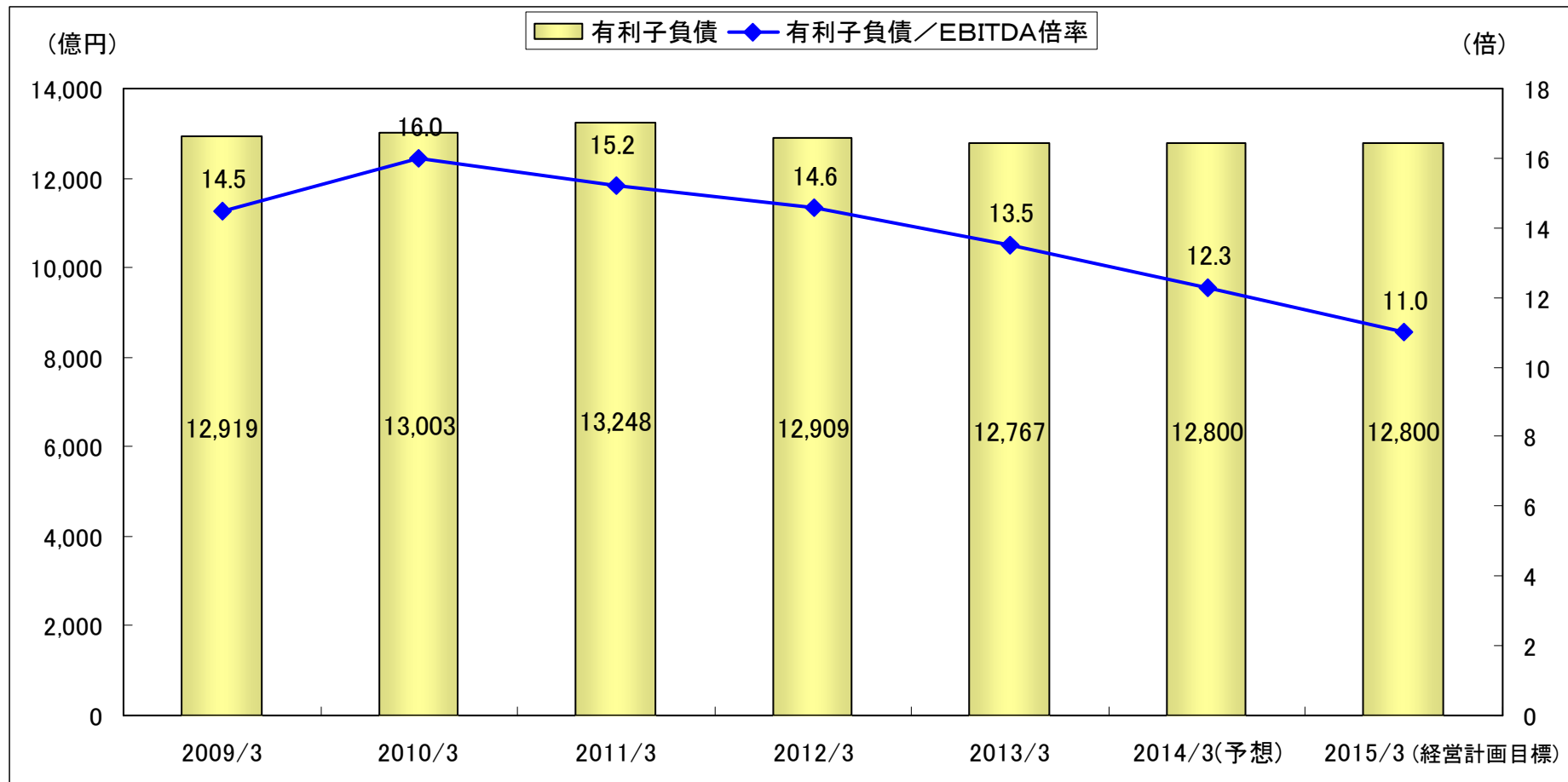
(EBITDA = 営業利益 + 減価償却費)

○ 旅行業再編に伴う2015/3への影響(統合効果)は反映していない

○ 2015/3経営計画目標は、2010年に策定した経営計画の最終年度数値目標

経営計画の概要③ 有利子負債の削減

キャッシュフローによる有利子負債削減を進めており、経営計画最終年度の2015/3月期には、目標の有利子負債残高1兆2,800億円以下、有利子負債／EBITDA倍率11倍以下の達成に目処。



経営計画の概要④ セグメント別営業利益の推移

運輸セグメントは営業利益を維持し、不動産、流通、ホテル・レジャーセグメントは、あべのハルカスの開業や利益創出力の強化により、営業利益増加を見込む。

運 輸

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3 (予想)	2015/3 (経営計画 目標)
営業利益	288	273	296	273	約300
売上高 営業利益率	13.2%	12.9%	13.9%	12.6%	約14%

鉄道収益は減少するものの、事業構造改革等の実施により、営業利益率は同水準を確保

不 動 産

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3 (予想)	2015/3 (経営計画 目標)
営業利益	68	81	81	95	約110
売上高 営業利益率	4.9%	5.9%	6.0%	6.5%	約9%

あべのハルカス効果のほか、マンション販売において高利益率物件へのシフトが進むことにより、セグメント全体の利益率向上

流 通

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3 (予想)	2015/3 (経営計画 目標)
営業利益	36	37	45	68	約105
売上高 営業利益率	0.9%	0.9%	1.2%	1.7%	約2%

あべのハルカス効果のほか、近商ストアにおいて7&iHDとの提携効果により利益率向上

ホテル・レジャー

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3 (予想)	2015/3 (経営計画 目標)
営業利益	△ 2	△ 1	39	64	約70
売上高 営業利益率	△ 0.1%	△ 0.1%	1.9%	1.3%	約3%

ホテル収益の震災前水準への回復やクラブツーリズムの利益貢献(2014/3-2Qでのれん償却終了)、志摩スペイン村の運営効率化による利益水準安定化

※その他セグメント等で、2014/3営業利益約8億円、2015/3営業利益約15億円

※旅行業再編に伴う2015/3への影響は反映していない

⑥ KINTETSU ※2015/3(経営計画目標)は、2010年に策定した経営計画最終年度数値目標をベースにセグメントに整理した数値

「あべのハルカス」計画の進捗① 全体計画

鉄道4社7路線が集中、関空とも直結する「広域集客拠点」であり、
「地域住民の生活拠点」でもある立地特性を活かした複合機能ビル。

<「あべのハルカス」計画概要>

◆高さ300m、地上60階
日本一の超高層複合ビル

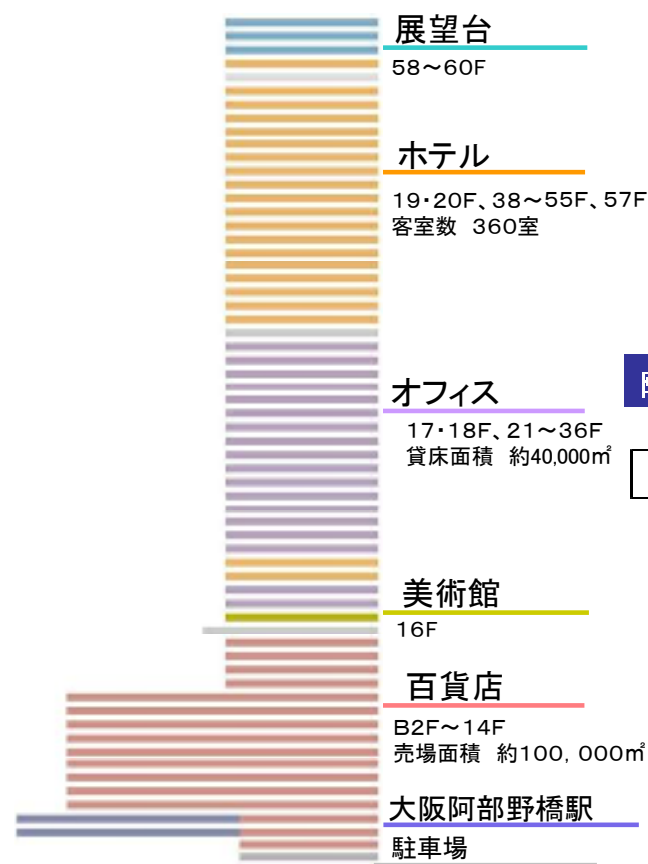
・延床面積(既存の建物含む)
約306,000㎡
(地下5階、地上60階)

・完成予定
2014年春

・想定来館者数(平年度)
13万人/日
(約4,740万人/年)

百貨店	4,500万人
オフィス	100万人
ホテル	30万人
美術館	50万人
展望台	60万人

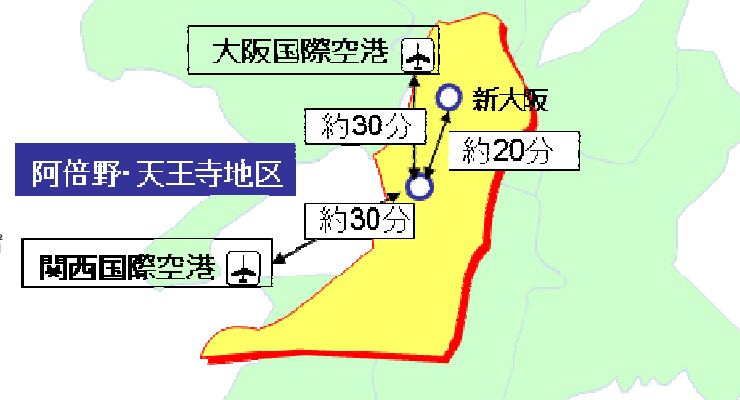
◆フロア構成



<阿倍野・天王寺地区の強み>

①ターミナル乗降 73万人/日
(近鉄、JR、地下鉄、阪堺)

②大阪市内有数の居住地区
教育機関、医療施設、都市公園、
歴史・文化施設が集積



③ 近鉄百貨店
あべのハルカス近鉄本店商圏
⇒商圏人口 620万人

④ 関西国際空港(KIX)の玄関口
⇒LCC専用ターミナルが開業

「あべのハルカス」計画の進捗② 百貨店計画

～あべのハルカス近鉄本店 ストアコンセプト～
モノ・コト・ヒトとの出会いが
暮らしを彩る「街のような場」

◆フルターゲットストア化 百貨店と専門店の業態融合

- 日本最大級のレストラン街
「あべのハルカスダイニング」
- 百貨店初出店のセレクトショップ中心
のファッションフロア「トレンドコート」
- こだわりの空間で「男のライフスタイル」
を提案する「近鉄メンズ」



あべのハルカスダイニング



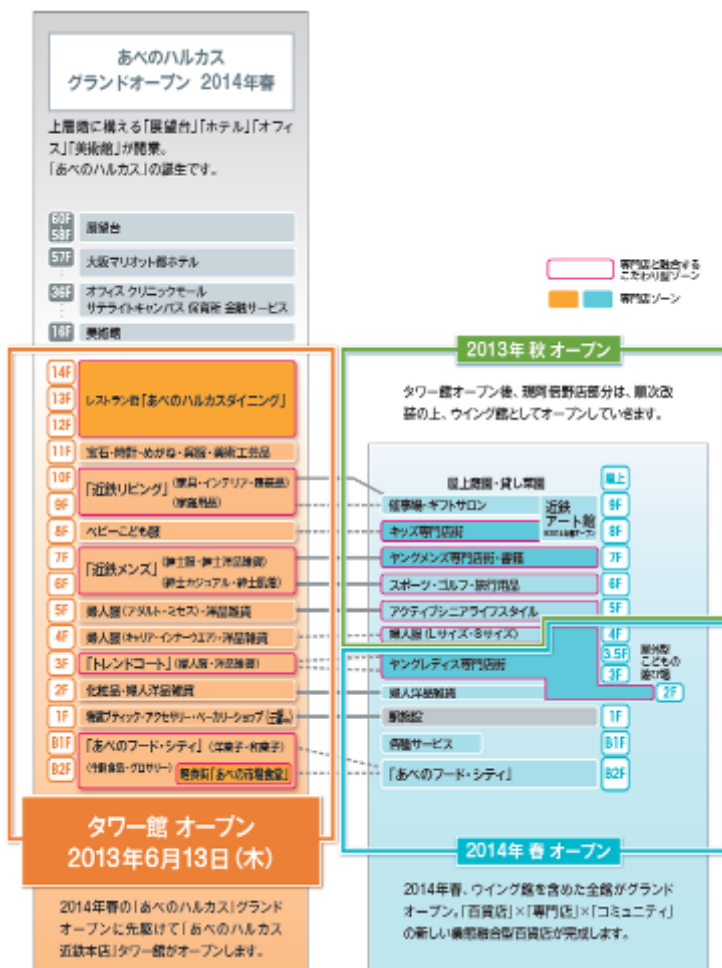
近鉄メンズ

◆時間消費型ストア化 百貨店とコミュニティの機能融合

- ゆとりの飲食・休憩スペース4,500席
2,800席のレストランに加え、1,000席の
カフェ、700席のレストスペースを設置
- 街のような場を象徴する、人々が集い、
やすらぎやにぎわいを生む広場を4ヶ所設置



森の広場



先行オープン時(2013年度)
営業面積 48,000～90,000㎡
取扱高※ 1,040億円
※百貨店売上高+専門店取扱高

グランドオープン後(2014年度)
100,000㎡
1,450億円



「あべのハルカス」計画の進捗③ ホテル・オフィス等計画

大阪マリオット都ホテル

マリオット・インターナショナルと提携

Marriott
HOTELS & RESORTS

世界的送客ネットワークと
サービスノウハウ

MIYAKO
HOTELS & RESORTS

日本のおもてなしの
心やサービス

ダブルブランドによる運営

- ・関西初のマリオットブランド
- ・日本一の高さの客室、全室洗い場付きの浴室
- ・宿泊重視、充実した付帯サービス

* 施設概要

- ・客室数 360室(基本面積38㎡)
スタンダード、デラックス、スイートルーム他
専用ラウンジを備えたクラブフロアを設ける
- ・レストラン・ラウンジ 3施設
- ・ビジネスセンター、トレーニングジム、中小個室 他



展望台

地上約300mの眺望

- ・60階 ガラス張りの
空中回廊
- ・58階 開放的な屋外広場



オフィス

- ・既存のオフィス面積が少ない地区
(大阪市全体の1%)
- ・順調なリーシング活動

- ・百貨店、ホテルのほか貸会議室・カフェテリア、保育所、メディカルフロアなどオフィス
ワーカーの利便性を高める施設を充実



美術館

都市の文化拠点

多彩な企画展を展開し、
芸術・文化を気軽に楽し
める「都市型美術館」

展示面積 890㎡



「あべのハルカス」 投資額・収支計画

グランドオープン(2014年春)初年度

(単位:億円)

	近鉄グループ 合 計	近鉄 (ビル・ホテル等) ※1	近鉄百貨店	従前の 公表数値
投資額	1,300	※2 987	313	1,300
収支計画				
取扱高	1,530	※3 80	1,450	1,550 (百貨店 1,500) ※4
売上高	※5 1,270		1,190	
(減価償却費)	(70)			
営業利益	90			80
(EBITDA)	(160)			

※1 近鉄には、ホテル関係(近鉄ホテルシステムズ)を含む

※2 数値は、百貨店投資額を除く全ての投資額

※3 数値は、百貨店から収受する賃料を除く外部売上高

※4 従前は、百貨店の売上高を取扱高ベース(1,500億円)で算出し、近鉄取扱高と連結相殺を考慮のうえ、合算し公表

※5 数値は、百貨店の専門店部分を賃貸収入として計上し、連結相殺を考慮

グループ事業の強化

グループの統括機能を強化するとともに、外部流通企業との提携や旅行事業の再編を実施。

◆流通

- ・2011年9月 近商ストア セブン&アイHDと資本業務提携
近商ストア第三者割当増資をセブン&アイHDが引受
⇒運営力強化による利益成長
- ・2011年10月 近鉄百貨店第三者割当増資の実施
⇒財務体質の強化
- ・2013年2月 近鉄松下百貨店(山口県周南市)閉店
⇒不採算店舗の整理
- ・2013年3月 駅ナカ売店・コンビニ事業についてファミリーマートと業務提携
⇒駅ナカ事業の強化

◆運輸

- ・2011年6月 近鉄技術ホールディングス設立
鉄道技術系グループ会社を統括
⇒経営管理機能強化
業務統合によるコスト削減
- ・2013年4月 近鉄タクシーホールディングス設立
傘下のタクシー会社を一元的に管理
⇒統治体制の強化
競争力の強化

◆レジャー(旅行)

- ・2013年1月 KNT-CTホールディングスへ商号変更し、持株会社体制へ移行
近畿日本ツーリスト(KNT)とクラブツーリズム(CT)を統合

伊勢志摩での増収施策

伊勢神宮式年遷宮を契機とした、グループ総合力発揮による伊勢志摩地域への送客。

◆乗ること自体が楽しみとなるような「鉄道の旅」の提案

【観光特急「しまかぜ」の運行開始】



展望車両、和洋個室、カフェ車両を備えた観光特急を3月21日から運行し、大阪・名古屋から賢島へプレミアムな時間を提供。

【観光列車の運行】



志摩地区への誘客を図るため、一般車両を改造し、イベントスペースを備えた観光列車を10月から運行。車内では地元と連携した物販なども実施する予定。

◆伊勢志摩近鉄リゾート現地施設の誘客策

【志摩スペイン村】

- ・ポート周遊型アトラクション「フェリスクルーズ」の導入
- ・「アフタヌーンパスポート」発売



【ホテル・旅館】

- ・式年遷宮をテーマとした宿泊プランの造成
- ・伊勢神宮内宮
⇨伊勢志摩近鉄リゾート各ホテル直行バス「パールシャトル」の運行



【賢島エスパーニャクルーズ】

- ・祝・御遷宮記念クルーズの運行

など

◆グループ旅行会社の送客策

【近畿日本ツーリスト】

- 団体：参宮団体の送客
- 個人：参宮をテーマとしたプランの発売



【クラブツーリズム】

- ・大規模集客イベントの開催
- ・専用列車「かぎろひ」を利用したプランの発売



◆誘客施策の告知

【せんぐう旅博

～日本人の旅 伊勢志摩～

地元自治体と協力した誘客キャンペーンの実施

グループ増収見込

約50億円(2011年度比較)

鉄道事業の強化

安全を前提に、需要減の環境下でも利益を確保できる体制の構築

筋肉質な体制づくり

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
◆運営体制の見直し 鉄軌道部門の従業員数	7,964人	7,761人	7,573人	継続実施 2015年度末約7,250人を目標	
駅無人化 (概ね1日の乗降3,000人以下の駅を対象)	費用削減効果 約50億円				
	無人駅数 32駅	44駅	57駅		94駅(予定)
◆需要に応じた輸送力の見直し 輸送の効率化と、特急増発、停車駅追加など利便性向上	費用削減効果:約8億円/年 増収効果:約2億円/年		★ 2012年3月 大幅なダイヤ変更	輸送需要に応じて適宜実施	
◆支線への対応	2007年度 伊賀鉄道・養老鉄道への分社化	内部・八王子線のBRT(専用道によるバス輸送システム)への転換または公有民営方式について地元協議中			実施時 収支改善効果 約3億円/年
	収支改善効果 約9億円/年	補助金制度活用等による更なる収支改善			
鉄道事業設備投資	174億円	181億円	195億円	190億円(予定)	安全関連を中心に 設備投資を継続
うち、安全関連設備投資	138億円	134億円	151億円	130億円(予定)	
新型ATS設置				主要路線設置完了★	全線(一部支線を除く) 設置完了★
プラットフォーム安全対策	非常通報装置の設置		対象161駅設置完了★	(このほか、内方線付き点状ブロック、転落検知装置などの整備)	
立体交差化工事の推進			奈良線八戸ノ里・瓢箪山間連続立体交差化		
			(名古屋線川原町駅付近などでも立体交差化工事推進中)		
大阪地区総合指令構築				2018年完成予定	
地震・津波対策			BCP(事業継続計画)策定★	BCM(事業継続マネジメント)の推進	
				車両からの避難はしご設置 2016年設置完了予定	

さらなる成長のための取り組み① 農業・太陽光発電ビジネスへの参入

農業ビジネスは順調に生産体制を確立。太陽光発電は、スマートシティへの展開も検討。

<農業ビジネス>

◆名称

近鉄ふあーむ花吉野

◆施設概要

施設	完全人工光型植物工場	農業用ハウス
栽培面積	約210㎡	約5,300㎡
栽培品目	葉物類 (レタス、ベビーリーフ等) 根菜類 (ラディッシュ等)	高糖度トマト
目標	フリルレタス換算 で40万株/年	50トン/年

◆経緯

- H24. 7 施設完成、栽培開始
- 8 ホテル等に植物工場産野菜の出荷開始
- 11 スーパー等に高糖度トマトの出荷開始

◆主な販売先

グループ内(スーパー、百貨店、ホテル等)
グループ外(スーパー、道の駅等)

◆収支見通し

事業開始3年目で売上高1億円、
4年目で黒字化

◆今後の展開

- 所有地や沿線農地での事業拡張
- 農業関連ビジネスへの新規参入



完全人工光型植物工場の内部の様子



「花吉野からトマト。」のパッケージ

<太陽光発電ビジネス>

◆事業概要

発電所名	発電容量 kW	発電開始 (予定)	全体概要
近鉄伊賀ゆめが丘 ソーラー発電所 (三重県伊賀市)	15,500	平成26年10月	・発電容量 24,400kW ・事業期間 発電開始より20年間 ・年間売上高 880百万円 ・年間営業利益 220百万円
近鉄志摩スペイン村 ソーラー発電所 (三重県志摩市)	2,500	平成25年9月	
近鉄花吉野 ソーラー発電所 (奈良県大淀町)	4,200	平成26年3月	
近鉄大分高江 ソーラー発電所 (大分県大分市)	2,200	平成25年11月	
			※売上高・営業利益は20年間の平均値

◆事業スキーム

当社は発電事業者として電力会社に電気を供給。
発電設備はメンテナンス業務などを委託する企業が保有し、当社は発電量に応じたサービス料を支払う方式。



近鉄志摩スペイン村ソーラー発電所(イメージ)

◆太陽光発電を活用した取り組み

奈良県・大淀町と「花吉野ガーデンヒルズにおける再生可能エネルギー高度利活用検討会」を設立。
当地区をモデル地区とし、太陽光発電所・EVやスマートハウス等を活用した災害時の電力供給などのモデル事業を実施し、地域活性化につなげる。

さらなる成長のための取り組み② KIPSカードの一層の強化

購買情報を共有・分析し、グループ全体でCRM戦略を推進する。
ICOCA一体型カードによる鉄道会社ならではの高い利便性を提供する。

<KIPSカードの種類>

		クレジットあり	クレジットなし
特徴		与信が必要	誰でも持てる
交通乗車機能	あり	クレジットカード KIPS PiTaPa カード  「KIPSクレジットカード+KIPS PiTaPaカード」	表 裏  (定期券付の場合) 「KIPS ICOCAカード」
	なし	 「KIPSクレジットカード」	 「KIPSポイントカード」
ポイント付与		クレジット決済または現金決済	現金決済

2011年11月

「KIPSクレジットカード」による
近鉄グループ共通ポイント(KIPSポイント)サービス開始

2012年12月／2013年1月

目標 200万人

「KIPS ICOCAカード」発行開始 交通IC機能付

「KIPSポイントカード」発行開始 与信不要

<KIPSカードの今後の展開>

1

KIPSポイントを活用した販売促進
⇒ ポイントの利用(交換)促進キャンペーン
や商品強化による売上拡大

2

顧客満足度の向上
⇒ 購買情報の一元管理による分析強化と、
需要に合った商品の情報提供

3

KIPSポイント加盟店および
サービスの拡大
⇒ グループ参加会社・施設の拡大、
他のポイントサービスおよび会員組織
との連携強化

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、計画数値と異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。



お問合せ先

経理部

Tel:06-6775-3465

Fax:06-6775-3691

Mail:ir-info@rw.kintetsu.co.jp